

# すそみろく

筑波山の山麓一帯を「すそみ」と名づけました



第10号 (平成21年1月1日)

発行・すそみろく編集委員会

TEL029-866-1122 (田井の里地域づくり愛好会・森田)

TEL029-863-5151 (NPO 法人つくば環境フォーラム・田中)

謹賀新年  
皆様のご繁栄を「祈念  
申し上げます。  
筑波山神社宮司 田中泰一  
029-866-10502

霊峰筑波山より  
世界平和を  
祈念致します。  
筑波山大御堂  
029-866-10126

大空という雄大なキャンパスに広がるな  
びく浮き雲、何て美しく神秘的な姿  
じつと見つめていると、自分もその中  
に同化している気持ちになります。本  
当に自然って不思議な力をもっています  
ね。  
田井小学校校長  
松崎恵美子

田井地区の皆様のお  
お任せを祈ります。  
井坂敦實(北条)

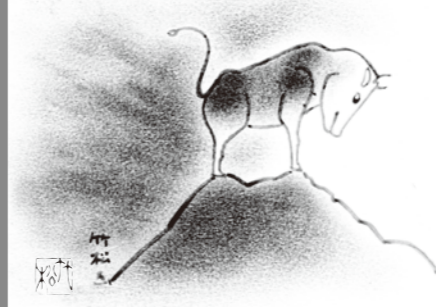
水源地  
森づくりから  
水づくり  
筑波区長 齋藤靖夫

多くの人が参加する  
秋祭りを  
神郡区長 飯田信義

皆さんと共に  
田井の里がより良く  
なるようにしましょう  
六所区長 森田源美

今年も秋祭りを  
実現しよう  
立野区長 鮎川清

## 明けまして おめでとう ございます



白井〜立野〜白滝コース  
の古道を整備したい  
白井区長 飯村勝一

初酉神社付近から  
筑波山を眺める  
地点を作りたい  
漆所区長 杉田進一

すそみろくが  
田井地区発展の  
礎となってください  
大貫区長 糸賀幹男

賀春観峰  
文化技術の里に  
すそみの田井を！  
神郡山房主人(神郡)

年に一度でもよいです  
から地域づくりに参加  
してください  
小沢区長 沼尻正一

田井地区の発展を  
願っています。  
杉ノ木区長 石嶋徳一

つくばが、そして田井地区が、  
こんなにいるところだとは  
知りませんでした。  
「六所の家」 入澤美時

すそみの田井は桃源郷ですね。  
眺めよし、人の気持ちよし、  
おいしいものよし。  
すそみろくの二ファン

今年も楽しい一年に  
なりますように。  
六郎

筑波山のすそ野の美しい  
眺めが、これからも残って  
いきますように。  
並木華の会

里山に学ぶ。  
里山で働く。  
里山に住む。  
株式会社里山建築研究所(神郡)  
029-867-11086

謹賀新年  
筑波山麓自然卵  
みたらい農園  
029-866-11238

## 「すそみ」のこれから

### 10号記念 創刊号から振り返って

みなさん、あけましておめでとうございます。昨年は、田井の里地域づくり愛好会が設立され、山麓がたいへん盛り上がりました。「すそみろく」もおかげさまで10号。「ことし、すそみで何をやろう?」編集メンバーからの抱負を集めてみました。本年もよろしくお願いいたします。

地域の皆さんの力が結集!  
「田井の里の秋祭り」



古式豊かな結婚式の様子

ちょうちん取り替え

の演奏、拓本展等16のイベントを開催。朝から、瓦の照明を灯した夜まで見どころ満載で、延べ1000人以上の来訪者があり、好評を得た。特に、瓦灯りの制作と陳列では、小学生の3年生〜6年生全員が参加。「子どもと大人が一体となり地域づくりに取り組んだ文化祭は他に無い」と、県知事が視察に来られた時にコメントされたほどだ。

六所の家の結婚式に集ったたくさんの方々



「金色姫伝説」の紙芝居も大盛況でした

山麓から世界の平和を祈ります。  
誰人、飢えることなく  
寂しさに、泣くことのないように...  
自然生クラブ一同

あけまして  
おめでとうございませ  
介護老人保健施設 豊浦

賀春  
今年も皆様にとって  
良い年でありますように  
つくばカントリークラブ

謹賀新年  
そば処丸忠 飯田忠  
029-867-0581

謹賀新年  
有限会社インテリア21  
インテリアプランナー 原武志  
029-866-11056

田井地区の  
益々のご発展を!  
ウエマツ  
インフォメーションサービス  
029-867-11717

今年もおいしい  
おそばが食べたいな  
「辻・鮎川」応援団

筑波大学教授 出口正義

懐に入れれば  
風止む初筑波  
本年もすてきな出会いを  
(有)結エディット  
029-869-5550

細草川の谷津田で米づくり  
ぜひ一緒に!  
つくば環境フォーラム  
田中ひとみ  
029-863-5151

今年もすてきな話題をお届け  
できるよう、軽いフットワークで  
仲良く楽しく取り組みます!  
すそみろく編集委員会同

秋祭りには、豊浦とつくばね  
カントリークラブから多大な  
協賛をいただき、ありがとうございました。  
田井の地域づくり愛好会同



幻想的な瓦灯りのプロムナード

みんな、がんばって作りました

今回の秋祭りは、館の「金色姫物語」紙芝居の公開、六所の「古式豊かな結婚式」、草木染体験と抹茶のサービス、白井の農機具が語る米作り1年展、蕎麦打ち体験教室、地元の新鮮な農産物販売(三味線や和太鼓の飛び入り演奏)や足湯など地域全体に広がった。大勢の地域の皆さんが結集して成し遂げ、成功させたことが誇りであり、担当責任者として、紙面をお借りして心から御礼申し上げます。そして、本年も「すそみろく」始め、地域づくりをしていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いたします。  
森田源美(田井の里地域づくり愛好会会長)

※「すそみろく」は全労済地域貢献助成事業『都市と農村を結ぶ「すそみの森」づくり』の一環として一部助成をいただいております。

「おせんげん」を眺望の場に！  
 普門寺本堂の背後から続く山は、江戸時代に作られた神郡村絵図では「三度山」とされていて、そのそばに「おせんげん」と記されている。おせんげんは「お浅間」であり、富士信仰のこと、きつと、ここに富士信仰の祭場があったのではないだろうか。富士信仰の祭場は富士山が遥拝できる場所に作られたといわれている。やはり神郡の「おせんげん」からも西の方に富士山を眺める事が出来る。

明治時代に入って富士信仰の衰退と共にこの「おせんげん」も忘れ

られた場所になったのでしよう。ところが地元の人々の伝えによると、昭和30年頃には子供から青年団までを含めて奉納相撲が「おせんげん」で行われたという。昭和25年頃、当時の古老の言葉で「昔、神聖な場所であつた所をきれいにしなさい」と告げられ、神郡の有志数人がお告げに従って「おせんげん」を整備して、奉納相撲を行うようになったとの事。以来平成の始めの頃まで清掃や維持管理がされていたが、今は生い茂る草に道も塞がれている。

この道をきれいにして「おせんげん」に立った時には、きつと筑波山

「すそろく」9号までの歩み	
創刊1号 平成18年12月23日	編集メンバーからのメッセージ「ようこそ、すそみの田井へ」／歳迎への行事「普門寺除夜の鐘」「蚕影神社のお正月」／飯名神社の初巳」など／点滅交差点「福来みかんのシフォンケーキ」※創刊号から田井小児童によるイラストを連続掲載／1〜4号に田井地区の年間行事の聞き書き「すそみ歳時記を掲載
2号 平成19年2月23日	木を切る名人・杉田房雄さん「筑波山麓には古くから農を営みながら、木を切り出す元山が多かったです」／炭焼きについて／春を寿ぐ神事「杉ノ木稲荷の初午祭、飯名神社の初巳祭」
3号 平成19年4月30日	「蘇る古民家」六所の茅葺き民家を改築した入澤義時さん。民家は「六所の家」と命名／大正7年の共有林を使った田井小学校の上棟式の写真と文／六所神社跡地で執り行われた「神御衣祭」（4月8日）
4号 平成19年6月30日	田井エンジョイクラブによるアンケート「子どもの遊び―昔と今」（山麓では意外と外遊びが多い！）／小沢の十五夜の「大麦小麦」、杉ノ木の「稲荷万燈」、神郡の「祇園祭」白井八坂神社の「御神火」を「伝えたい民俗行事」として紹介／点滅交差点は蚕影神社の名物だった「蕪玉のお菓子」
5号 平成19年10月30日	秋を探して白滝古道を歩く／すそみ点滅交差点は秋のご馳走の「つばふかし」※2年目を迎え編集メンバー自らが動く「すそみ行動派宣言」を隠しテーマとして取り組む
6号 平成19年12月30日	お正月企画・600年の歴史に思いを馳せて「折形にふれる」／私のお気に入り「白井のさとの実（棕の木）」／お正月のメッセージ（32名からの協賛）
7号 平成20年4月1日	全ページ「桜」をテーマに／地図にない神郡山の山桜を探して・お花見隊が行く／薪プロジェクトスタート／私のお気に入り「燈が池の榎」／点滅交差点「桜おこわ」
8号 平成20年7月10日	御手洗竹松さん「金色姫伝説を描く」／レンタサイクルでゆく「初夏のすそみめぐり」／念願の地元の地域づくりの組織「田井の里地域づくり愛好会」発足／点滅交差点「はんでん屋」交友録（1年間神郡の倉庫でカフェを開店した思い出）
9号 平成20年10月1日	国民文化祭「筑波山麓秋祭り」の田井地区の注目イベントを全ページで紹介／田井の瓦屋さんと子どもたち／すそみの花嫁／お庭拝見「佐治右衛門邸」など／小さなそば打ち名人「辻・鮭川」と白井の「祭太鼓」

の全景を目の前に、西のかたなに富士山を同時に眺められることでしょう。  
 石井博子（神郡地区）  
 古道 魅力ある山道の復活を！  
 筑波山麓田井地区の山中には、かつて白滝神社への参詣道として使われていた道（白滝古道）や、山仕事のためにつくられた多くの山道があります。長い年月使われず、草木が生い茂っています。昨年、地元住民の方々と外部の応援団と一緒に白滝古道を復活させる整備をはじめ、もう少しで全部歩けるようになります。蚕影神社から細草川へおりの山道を復活したいという声もあり、実現すれば、筑波山を眺められるすてきなコースとなるでしょう。また、山口から神郡に至る山道をつけようと「つくばフォレストクラブ」のメンバーが活動を始めました。気持ちよく歩ける山道が復活して、ハイキングコースの魅力アップにつながりますね。森林が使われなくなって手入れされずに放置され、イノシシのすみかとなつてしまつた今日ですが、山道の復活からはじまつて山麓の里山整備が進み、美しい景観や豊かな自然が守られることを願っています。  
 田中ひとみ（つくば環境フォーラム代表）



筑波山に彼岸花がよく似合う

日本一の彼岸花の里に！  
 観光客や地元の人々に喜んでいただけるよう願つて、つくば道沿いに四季折々の花を植え続けて15年。ヒマワリ、サルビア、ペコニア、日々草、百日草、小菊など、春から秋にかけて長く咲く花を選んで植えています。花を植える仲間たちも少しずつ増えてきました。不要になった木を友人からもらい受け、それで作った丸太の椅子も自宅近く10カ所に設置しました。ちよつと一休みしながら、きれいな花と筑波山を眺めてみてください。今の私の夢は、白井から立野にかけての地区を日本一の彼岸花の里にしてみたいということです。この地区は猪の被害が多い所です。そこで、猪の嫌う彼岸花を植え、猪除けも兼ねて、美しい彼岸花の里づくりが実現できるような構想を練つてるところです。彼岸花の咲き乱れる様子を思いを馳せながら、みなさまのご協力をお願いしたいと思います。 鮭川和行（白井地区）

あなたも夢を描いてみませんか？  
 「すそみ」をみんなで盛り上げよう！！



白滝古道整備中です



山麓オーケストラを結成したい！  
 筑波山麓に生まれ、東京で育ち、現在、筑波山麓在住という人はそう多くないだろう。ここに住んでみると、「いい所にいますね」「不便で大変でしょう」という二通りのことを言われる。その答えはどちらも簡単だ（私の生き方が正しい！）。仕事の傍ら、趣味のバンドを長いこと続けてきたが、最近はいまややっていない。でも、いつでもスタンバイ出来るように、構想は練っているのである。それで、近いうちに「筑波山麓オーケストラ」を結成したいと思っている。3人ぐらいのバンド経験者がいれば可能だろう。まったくの未経験者がいたっていい。楽曲はトラッドやスタンダードナンバーを、ジャンルは考えず、アレンジはシンプルに、センスは高くという感じだ。30人ぐらいのメンバーに登録してもらい、流動的に演奏するのである。練習は月2回ぐらいでもいいか。のんびりと作り上げていければ。と夢想しているのがあった。 榎田智司(六所地区)



出番を待っている楽器たち

## インフォメーション

- 普門寺 除夜の鐘つき  
 12月31日(水) 23時から整理券配布 23時15分に順番のくじびき(当たり券あり) 23時45分から撞き始め
- 大御堂  
 世界平和を祈念して皆様も鐘をついてください。  
 12月31日(水) 22時から除夜の鐘  
 1月1日(祝) 10〜16時 新春の鐘打ち  
 1月18日(日) 初観音ご縁日 ご来寺になつて世界平和を祈念しましょう
- 筑波山神社  
 1月1日(祝) 3日(土) 初参りの皆様に甘酒のサービスがあります。その日の予定数がなくなり次第終了します
- 飯名神社例祭  
 2月5日(木) 皆様のご多幸を願ひ富来餅を5回撒きます。(10・11・12・13・14時)
- 杉ノ木稲荷神社 初午祭  
 2月6日(金) 8時から
- 筑波山麓すそみの森づくり  
 1月10日(土) 竹林の手入れ・チップ化作業  
 2月7日(土) 間伐材の処理  
 2月21日(土) 間伐材でベンチ作り  
 3月7日(土) 植樹祭
- ※活動日には「つくば薪クラブ」の活動もあわせて実施します。薪ストーブ愛好家の皆様のご参加をお待ちしています。
- 「問・申込」つくば環境フォーラム  
 029-863-1515
- 筑波山麓自然学校 炭焼き講座  
 1月31日(土) 2月1日(日) / 大人のみ参加費9000円(1泊4食、夜の交流会含む) / ドラム缶窯で竹炭・飾り炭づくり、燻製・ピザ焼きなども。
- 「問・申込」筑波ふれあいの里  
 029-866-1519



「里山緑台」でくつろぐ人々 写真：米山淳一

つくば道の「里山緑台」を広めたい！  
 国民文化祭の一環として盛況のうちに行われた秋祭りの期間中、山麓各所に用意された2種類の「縁台」に気づかれただろうか。竹の縁台と杉の縁台である。どちらも里山の材料を使い、地域の職人の技を活かして作った。庭先や通り沿いに並べられた縁台は、紅葉の山麓風景にじっくり馴染み、行き交う人々も歩みを止めてほつと一息ついていた。  
 元々このような縁台は、夏に縁先や川辺に据えて涼みに用いる「涼み台」と呼んだそうだ。跨つて将棋を指す際にも使つたらしい。肌寒くなる秋祭りの季節でも、地域の「温み台」として毎年味わいを重ねて活用されることを願う。物を陳列するも好し、腰掛けるも好し、軽くて持ち運び便利。「里山縁台」ご注文承ります。松本真朋(里山建築研究所)